

3. 植物調査結果

3. 植物調査

3.1 植物調査結果の概要

(1) 確認種

今回とりまとめを行った 18 水系 18 河川で確認された植物は、175 科 2,118 種でした。

確認種数が多かった河川は、北陸地方の信濃川で 1,121 種、次いで東北地方の最上川で 876 種、中国地方の高津川で 865 種でした。

(2) 特定種

今回とりまとめを行った 18 河川で確認された特定種は、レッドデータブック絶滅危惧 IA 類に指定されているバラ科のクロミサンザシ、絶滅危惧 IB 類に指定されているイラクサ科のナガバサンショウソウ、リンドウ科のホソバツルリンドウ等、34 科 51 種でした。

特定種の確認種数が最も多かった河川は、北陸地方の信濃川で 24 種、東北地方の米代川で 12 種、北海道地方の天塩川と東北地方の最上川でそれぞれ 10 種でした。

(注) 特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種、亜種、変種、品種を特定種としました。

- ・ 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- ・ 環境庁(省)編「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」
(2000：植物 I (維管束植物)) 掲載種

(3) 外来種

今回とりまとめを行った 18 河川で確認された外来種は、タデ科のエゾノギシギシ、マメ科のムラサキツメクサ、アカバナ科のアメリカミズキンバイ等、57 科 362 種でした。このうちの約 4 分の 1 にあたる 99 種が、半数以上の河川で確認されました。

外来種の確認種数が最も多かった河川は、北陸地方の信濃川で 199 種、中国地方の高梁川で 158 種、高津川で 147 種、関東地方の利根川 (烏川・神流川) で 142 種でした。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I.6 (26～27 ページ) および 28 ページに掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。